

# 先人の知恵と技術に感銘

## アカタン堰堤、山中トンネルを見学

県コンクリート診断士会

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は19日、南越前町内で明治時代に築造されたアカタン砂防堰堤群および旧北陸本線トンネル（山中トンネル）の見学会を開催した。今から100年以上も

前につくられた構造物は今も確かにその姿を残し、参加者らは先人の知恵と技術の高さに感銘を受けた。

今回の見学会は、自分たちの専門分野であるコンクリート以外にも幅広い知識を身につ

けようと、福井に残る歴史的価値ある構造物を対象に開かれ、会員および賛助会員ら27人が参加した。

アカタン砂防堰堤群は、1895（明治28）年に日野川支流の田倉川に注ぐ溪流・赤谷川

（アカタン）上流で大規模な土砂崩れが発生し、その後、災害を防ぐため下流住民が9カ所に石積みや土の堰を築造。工事には女性や子供も参加し、完成までに約7年の歳月を要した。近年、堰が自然

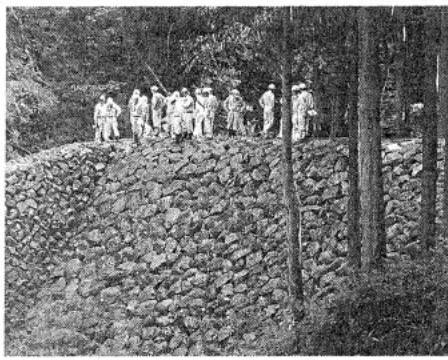
と調和するなど優れた機能を有していることが判明し、全国の河川技術者からも注目を集めている。

この日、参加者は同町の体験型施設「リトリートくら」に集合し、館内でアカタン堰堤群を管理する「田倉川と暮らしの会」の伊藤喜右工門代表から概要説明を受けた後、現地に移動。現地では堰堤群の中域に位置する「奥の東堰堤」と「松ヶ端堰堤」を見て回り、実際に土砂崩れで発生した石（自然の石）を高さ7メートルまで積み上げた「野面積み」や、1

つのを6つの石で囲んで応力分散させた「亀甲積み」、また山際の傾斜と自然の岩盤を利用した水通しなど、当時の技術の高さに驚いていた。

は、まず施工業者が今回の補修工事で採用した裏込注入工法と止水工法を紹介。裏込注入工法では注入材となる硬質ウレタンの発泡試験も行われた。その後、参加者はトンネル内に入り、アーチ部が「長手積み」、側壁部が「イギリス積み」で正確に構成されることや煉瓦の剥落、漏水状況なども確認しながら作業現場に到着。補修工程を間近に見学した。

見学会終了後、石川会長は「分野は違えど見習うべき点は多数あり、とても有意義な内容だった」と充実した様子で話した。



アカタン堰堤を見学する参加者ら



ウレタン発泡試験の様子

一方の山中トンネルは、96（明治29）年に煉瓦を3〜5層に重ねて土庄に

「奥の東堰堤」と「松ヶ端堰堤」を見て回り、実際に土砂崩れで発生した石（自然の石）を高さ7メートルまで積み上げた「野面積み」や、1

つのを6つの石で囲んで応力分散させた「亀甲積み」、また山際の傾斜と自然の岩盤を利用した水通しなど、当時の技術の高さに驚いていた。

見学会終了後、石川会長は「分野は違えど見習うべき点は多数あり、とても有意義な内容だった」と充実した様子で話した。